



第1地号申

「第35回定期大会」の発言に踏まえた申し入れを行う!

JR東労組千葉地本は7月3日、「第35回定期大会」を開催し、職場現実の声に踏まえて、向こう一年間の運動方針を満場一致で確認しました。

新型コロナウイルス感染症拡大のリスクにより、社会情勢が大きく変化している現実を敏感に捉えている代議員からは、「緊急事態宣言発令の中、安全・安定輸送を担ってきた」「変革2027による会社施策への不安がある」「職場にはJR東労組への差別感がある」などの発言がありました。

発言から見えてくるのは、職場には見えないところで問題が発生し、それが表面的に問題になるころには取り返しのつかない事態になりかねないという訴えでもありました。日々の業務は、安全を大前提として、組合員が安心して業務や施策を担える環境が必要不可欠です。

JR東労組千葉地本は、「新生JR東労組運動宣言」のもと、会社施策に真摯に向き合い、会社の発展と組合員・家族の幸せを実現し、希望あふれるJR東日本グループをつくるために申し入れを行いました。今後団体交渉を行います!

(要求項目)

1. JR東日本を発展させるために、労使は団体交渉の議論経過を含めて労働協約を遵守すること。また、職場では異動・担務変更・試験の合否・人事考課に差別感があることから、組合差別は絶対に行わせないこと。
2. 「新たなジョブローテーションの実施」については、管理者と一般社員との面談は本人が希望するキャリアプランが実現するようなコミュニケーションを図ること。また、希望するキャリアプランが実現できない場合には、その理由を含めて丁寧に説明し、納得感・公平感の持てる施策とすること。
3. 過半数代表者選挙を公正・公平に実施するために、タブレットやメールを使用した投票を行わないこと。また、郵送での投票の場合は開票時に開封し、投票箱に入れてから開票すること。なお、開票時に立候補者または立候補者が指名した社員を立ち合わせること。
4. 新型コロナウイルス感染症に対する衛生用品の配布に不安があることから、現在の備蓄状況を明らかにすると共に、感染拡大の第2波以降を想定した準備を行うこと。また、新型コロナウイルス感染症等により発生する勤務免除の取り扱いについては、業務量に応じた適正な判断をすること。
5. ICTを活用した業務を推進するため、ネットワーク環境を強化すること。また、グループ会社やパートナー会社へタブレットを導入し、Office365が使用できる環境を整えること。
6. 「ワンマン運転の実施」を含めて、現在の乗務員基地再編の考え方を明らかにすると共に、車掌業務の運転・改札業務を残すこと。
7. 2020年5月8日に外房線で発生した脱線事故について、運転再開に至った根拠を明らかにすると共に、列車事故等発生時には安全が担保できるまでは徐行運転とすること。また、置石などの列車妨害についての対策を講じること。
8. 沿線価値向上の観点や駅の特情を踏まえ、海浜幕張駅のみどりの窓口の営業を継続させ、営業職場の将来像を明らかにすること。
9. 営業職場の直営駅、委託駅での業務の棲み分けを明らかにすると共に、委託した業務は受託会社で責任を持って行うようにすること。また、異常時対応などの管理駅の負担を軽減するために、管理駅の要員を増やすこと。
10. 車イス対応における乗車位置、乗車列車、車掌への案内不可などを主張するお客さまについては、安全を確保するための必要な取り扱いであることを理解して頂く取り組みを行うこと。なお、理解を得られない場合は、対応を検討すること。

安全で安心して働ける職場を創るため、職場からの声をもとに、
労使の建設的な議論で課題解決を目指します!

